

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和4年度第1回河内長野市文化財保護審議会
2 開催日時	令和4年10月14日(金)午後2時から
3 開催場所	河内長野市役所 7階 行政委員会室
4 会議の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・議事第1号議事「令和3年度事業評価」について</li><li>・その他</li></ul>
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部文化財保護課 文化財保護活用係 (内線748)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

## 令和4年度第1回河内長野市保護審議会議事録

日 時 : 令和4年10月14日(金) 午後2時から  
場 所 : 河内長野市役所 7階 行政委員会室  
出席委員 : 櫻井 敏雄 会長  
                  中村 浩 副会長  
                  樽野 博幸 委員  
                  小栗栖 健治 委員  
                  北川 央 委員  
                  山田 智子 委員  
                  小谷 利明 委員  
                  吉原 忠雄 委員  
                  井上 剛一 委員

事務局側出席者 : 松本 芳孝 河内長野市教育長  
                  小川 祥 河内長野市教育委員会生涯学習部長  
                  伊藤 浩吉 生涯学習部文化財保護課長  
                  太田 宏明 文化財保護課課長補佐  
                  花井 徹 文化財保護課文化財保護活用係長  
                  吉村 君子 文化財保護課

案 件 : 議事第1号 議事「令和3年度 事業評価」について  
          その他報告  
          ・史跡保存活用計画の策定について  
          ・「京都国立博物館特別展 河内長野の霊地」開催に伴う本市の取組みについて  
          ・「河内長野版 歳時記」について

### 議事第1号

議事「令和3年度 事業評価」について

〈事務局説明〉

(樽野委員)

事業評価の説明中にあった枯れ木の被害は何の木か。

(事務局)

檜枯れの被害です。大阪府内で広がっていたが、河内長野は入ってくるのが遅く、滝畑は特に南の端になるが、ついにここまで来たかという感じだ。切るしか他に方法がなかった。

(北川委員)

日本遺産のことだが、以前に（この保護審で）聞いたところ、主管課が違うということで、事業の内容や進捗状況の説明がほとんどなかったと思う。私は九度山の方で名誉館長をやっているのだから、九度山では日本遺産の事業報告などを聞く機会があった。今回のように事業評価で出てくるのであれば、この文化財保護審議会でも逐次説明があるべきではないかと思った。

(事務局)

本市では、日本遺産の活用といった観光に使う部分は、産業観光課が事務局を担っているが、役割分担があり、市民への社会教育や学校での教育といった市民への啓発、あるいはその中での人材活用といった部分は、教育委員会が担っております。

(北川委員)

それであれば、多くの文化財の審議を行っている文化財保護審議会でももっと説明していただかないといけないと思う。

(事務局)

承知しました。

(北川委員)

女人高野日本遺産協議会というのはどこにあるのか。

(事務局)

河内長野市が中心になって立ち上げていて事務局の住所は河内長野市内。加盟している4市町村の取りまとめを行っている。市内向けの普及啓発や調査研究事業（活用の）など教育委員会が行っている。前回の事業評価では詳しく取り上げていなかったが、今後詳しく説明をしていきたいと考えている。

(櫻井会長)

事業評価のシートの見出しを見ると、左の方はハードの方が多く、右はソフトのことが多い。また「効果」の欄があるが、効果がうまく表現されていないと感じる。段階的に、効果が出ていることがわかるような表現にはできないか。

(事務局)

効果の書き方が抽象的ということでしょうか。

(櫻井会長)

効果が出ているのかわかりにくい表現と感じる。今後検討してほしい。

(事務局)

承知しました。

(中村副会長)

評価シートは部分的なこと、それとも全体的なことの妥当性・手法を評価するのか。

(事務局)

三つの事業区分でそれぞれ事業全体として見た妥当性を評価してほしい。事務局でAなどの評価をしているが、先程の事務局の説明を聞いて、Aではないと判断されれば、その評価を入れてほしい。

(中村副会長)

どこが妥当かなども書き込むのか。

(事務局)

書き込んでいただいて構わない。

(櫻井会長)

前回の事業評価の際は、修正してはという提言をしたと思うが反映はされているのか。

(事務局)

自己評価を先に入れて、お配りすることにした。

(中村副会長)

評価シートを見ると、A・B といった市の評価が書かれているが、どこをとらまえてその評価になっているのかわからない。

(事務局)

(評価区分) 事業評価シート(別紙1)の記載の実績の欄の達成率を踏まえて評価した。コロナ禍の影響で不可抗力で達成率が下がっているものもあるが、それはA評価、それ以外の要因も作用して達成率が下がったものはB評価といった形で評価した。もちろん、先生方がそれぞれの達成率を見て違う評価をしていただいてもかまわない。

(北川委員)

テーマ型ボランティア・郷土歴史学習など達成率は低くなっているが、それはコロナの影響と言われたら、A評価しかできないと思う。

(事務局)

市役所では各所で事業評価が導入されていて、おおくりの評価になればなるほど、どういった点を評価したのかという説明を求められて、結果、A評価とかB評価となるが、先生方のおっしゃる通り、事業ごとに段階を追って細分化、アウトプットでどうだったか効果どうだったかを細かく評価し、その結果としてAの評価といった形にするなど改善が進められてきている。今回はそこまで間にあわなかったが、もう少し細分化した中で評価し、お示しするようご指摘を踏まえて改善させていただく。

(櫻井会長)

ボランティアは重要な役割だが、ひとくくりにボランティアと呼称するのはどうかと思う。もっとしてくださっている人の誇りを持てるようないい名前を考えられないか。また、一方的な啓もうではなく ボランティアから引き出していくような、双方向的な仕組みを作らないとお金をかけた効果が得られないのではないか。

高向の小グループで行う取り組みは、核を作るいい取り組みだが、(テレビ番組で取り上げられていたが) イタリアの小さな村で広場に若い人から年配の人まで幅広く集まってくるシーンがあり、その広場にはいろんな店が出ていた。このような地域の結節点となる何かを作っていないと地域に根付いていかないと感じた。

(事務局)

承知しました。

(小栗栖委員)

事業評価を見ると、文化財の保存修理などハード面の評価、教育・啓蒙などソフト面があり、ハード面は補助金の修理ができれば100パーセント、ソフト面は予定した回数を達成したら、100パーセ

ントという感じだが、やり残したところなどもあるのではないか。育成事業、観光分野での活用事業など、成果が見えてこない。通り一遍的な評価に見える。もう一歩先を課題に設定し、見こさないと評価の意味が出てこないのではないか。

(事務局)

事業をやることによって、社会がどう変わるかといったことが、わかりにくかったと思う。次年度の課題とする。

(小谷委員)

学校の先生に対し、こちらからメニューをお見せするという形ではなく、学校の先生方が必要とするものは何かこちらが把握する必要があるのではないか。八尾市では高校の先生・ボランティア・公募の委員の方・高校生などいろんな人から意見を頂いている。また、民具中心のプログラムでは今の先生では無理がある。町の成り立ちを考える写真中心の学習にしたいというリクエストがあった。市役所広報課の写真データベース化に取り組んでいる。そういう希望は学校の先生に聞かないとわからない。今必要な情報は何か、把握しないとつかってもらえない。ユーザーのニーズ把握必要。校長・教頭でなく若い先生に聞いて内容を決めている。(河内長野でも) 初任者研修などで若い先生を捕まえて希望を聞いてみては。

(事務局)

郷土歴史学習の取組みを行っているなかで、現在主に学校長や教頭先生と協議を行っている。今後は若い先生からも聞くように心がける。

(櫻井会長)

(委員の皆様へ) 事業評価のご記入をお願いします。

## その他報告

〈事務局説明〉

- ・ 史跡保存活用計画の策定について
- ・ 「京都国立博物館特別展 河内長野の霊地」開催に伴う本市の取組みについて

(事務局)

(先ほど説明した) 市の史跡保存活用計画の作成の進め方でよいか。文化財保護審議会の委員の皆様には、計画案の審議などをお願いしたい。来年度 10 月頃が初の審議会となるが、この形で進めてよいか。

(井上委員)

活用計画の審議はここで年 2 回だけ審議するのか。

(事務局)

年 4 回を予定。現地検討会も別途行い、個別案件では、関係のある委員に相談するほか、臨時で審議会を実施する可能性もある。4 回プラスアルファと考えていただきたい。

## その他報告

〈事務局説明〉

・「河内長野版 歳時記」について

(北川委員)

地域による差に注目されている点はそれでいいと思うが、もう一つ時間軸にも併せて注意を払ってほしい。こうした年中行事に関しては、よく「昔からずっとそのまま行事が続いている」と説明されることが多いが、実際には時代とともにさまざまに変化しており、現在の行事のあり方はその時点のものでしかない、と考えるべきである。高度経済成長期以前の農業中心の社会であった時代と現代とでは、行事が行われる日にち自体が変わっていたり、行事の実施主体の構成員も変わったりしているケースがしばしばみられる。たとえば村落の人たちだけでやってきた行事が村落の人たちだけでは維持できず、外部の人を受け入れて存続しているケース、かつては女性が参加できなかった行事に女性が参加するようになったりしているケースなども確認できる。「この地で昔からずっとやってきた」という説明だけでなく、変化しながら存続しているという視点を持つことも重要なので、地域差とともに、時間軸の設定も大事にしてほしい。

(小栗栖委員)

アンケートを取っている先が自治会となっているが、これは共同体の行事、ムラマチの行事ということなのか。個人の行事、年中行事というと家の行事を調査することが多いが、これは共同体の行事の調査ということなのか。これでもかまわないがこれを歳時記というものにしたとき、日本人の一年といったものがこの歳時記の中で明らかになっていくのか説明が欲しい。

(事務局)

2 番の紙媒体の 2 ページ左上の一番をご覧いただきたいと思います。個人宅でしている行事と共同体がしている行事はリンクしているところもあればそうでないところもありますが、どちらにしても日本人の農耕を中心としたサイクルであったり、漁業を中心としたサイクルであったり、色々とは思いますが、紙媒体の最初でこういう背景があつてと言及する予定である。

(小栗栖委員)

1~6 月、7 月~12 月といった形で日本人は一年を二区分で暮らしてきた。始まりは正月と盂蘭盆は同じ意味を持っている。こういうことを話ししようとする、共同体の行事だけでは個人の家伝統的な日本人の家で行われてきた行事というのを取り込んでいくことで、歳時記版プロジェクト目的をより達成できるのではないか。ただ個人の年中行事が残っている家が河内長野にどのくらい残っているか。長男が地域社会に残ってその人たちによって伝統文化は維持されてきた。引き継いできたが、そういう方々は 30 年ぐらい前に亡くなられている。そういった中で河内長野でどのくらい調査できるのかということも踏まえながら、作るというものがつくられるのではないか。

(櫻井会長)

これは文化財保護課のプロジェクトか。

(事務局)

生涯学習部で行っていて、最終的には社会教育の場で活用したいと考えている。

(櫻井会長)

監修者は必要ではないか。

専門の先生方のご意見をちょっと頂戴してされるとより良いものになるのではないか。

(事務局)

日本人の一年といった知識的な部分と、自治会に悉皆調査をかけて漏れがないか調べた結果を両方ミックスした形で作る必要があると考えている。分析した結果について、個別の解説書・調査報告書で触れていきたい。アドバイスいただき、また随時この場でも報告したい。

(中村副会長)

ユーチューブの動画で残していくのが良いのではないかと。いついつの歳時記という形でアップし、児童はタブレット端末を持っているので楽に頭に入る。紙芝居や冊子に比べてユーチューブは簡単。この時はこんな形の行事だったんだと時点で切り取って時点時点でアップするとういのではないかと。

(櫻井会長)

中間報告と説明していたが、このプロジェクトは何年計画ですか。

(事務局)

令和6年度で完成予定。

補助金獲得しつつやっていきたい。